

市政への質問



▲患者さまの要望を取り入れた安全で適切な看護について検討(病棟スタッフステーション)

問 外部専門家を入れた「病院改革懇話会」の設置が必要ではないか。

答 現在は設置できない。

医療制度改革、病院改革が急速に進み、自治体病院の「独立行政法人化」や「民間譲渡」が課題となっている。そのため有識者や市民との意見交換は欠くことができない。

しかし、現状は、市民病院として対応、解決しなければならぬ課題が山積している。優先度を考えながら、体制を整えられる状況になれば設置したい。

問 市民病院のセールスポイントとして「ホスピタリティ」認定取得をしてはどうか。

答 「ホスピタリティ」認定取得は考えていない。病院機能評価の認定取得が重要。「ホスピタリティ」認定の取得に向けての準備が医師・看護師など職員に一層の負担を強いることから、「ホスピタリティ」認定の取得は考えていない。

本年、市民病院では経営の建て直しを最優先とするために病院機能評価認定の取得を見送ったが、病院のセールスポイントとして「病院機能評価」を重視する考えは変わっていない。なお、「ホスピタリティ」の精神である「女性も含め働きやすい職場づくり」には努めていく。

これからの取り組み

問 市民病院の特色として無理のない自然分娩や母乳育児をすすめる産婦人科づくりをしてはどうか。

答 あまり強調することは控える。

三田市民病院は、出産時は、原則、自然分娩としており、本人と家族の要望がない限り分娩の誘発などは行わない。また胎児と母体に危険が伴うとき以外は帝王切開分娩もしていない。

しかし、特に、誤解のないようにしていただきたいのが、脳に与える影響は、帝王切開で生まれた乳児と自然分娩で生まれた乳児は変わらない。

当院でも、やむを得ず帝王切開で出産されたお母さんや母乳で育てたいお母さんが出ないお母さんなど様々な方がおられ、そうした方々への配慮から、母乳育児・自然分娩等をあまり強調することは控える。

出産方法がどのような方法であっても、愛情を持って子どもに接することが、最も大切なことだと考えている。

母乳育児については、母乳主体を基本とし、可能なお母さんには出産後24時間以内に母乳による授乳を開始、希望者には母子同室としている。

問 今後、市民病院はどのような病院をめざすのか。

答 機能の集約化・重点化の検討は避けられない。

市民病院は、「病院と診療所の連携」を基本として「急性期」病院への特化を図り、地域の中核病院として、二次医療並びに二次救急を受け持つべく、今後は、今後は、市民病院だけに限った体制の整備が必要である。

あわせて、医師が偏ってそれぞれの病院に在籍している現状から、市民病院がどんな診療部門を受け持つべきなのかを検討し、地域の病院の中で病院機能の集約化や重点化を推進する必要がある。

今後は、市民病院だけでなく、市民の要望にこたえることは難しくなる。

問 市民病院が中核病院として維持できる費用の見通しはいつているのか。

答 医師・看護師の給与の引き上げに向け予算補正したい。

医師・看護師の確保・離職防止対策が緊急の課題であることから、一時的には赤字が増えるが、必要となる補正予算を、次期定例会に提案したい。

問 信頼できる病院づくりに向けての取り組みを伺いたい。

答 閉鎖した病棟・診療科を一日も早く再開したい。

市民の信頼を回復し、赤字問題を解消するためには、経営基盤を強化することが最も近道である。

病院組織は、医師、看護師、医療技術職など、資格職が中心であり、本来の職務を発展させ、自らのやりがいを感じれば大きな潜在能力が発揮できる。

病院の進むべき道、目標をすべての病院職員が共有し問題を説明・解決することにより、経営の健全性を高めたい。そして、良質で安定した医療サービスを提供できる体制づくりを進めるために、閉鎖した病棟と休止した診療科を一日も早く再開し、経営基盤を強化したい。そのことが市民への信頼回復の第一であると考えている。

用語解説

■ バランススコアカード
病院全体で経営戦略を決定し、財務の視点、顧客(患者)の視点、業務プロセスの視点、学習と成長の視点の4つの視点からそれぞれ数値目標を設け、経営担当者や医療現場でどうすれば達成できるかを考え、バランスのとれた業績の評価を行うものです。

■ ホスピタリティ
女性医師のキャリア形成・向上をめざすNPO法人ejnetが行う「働きやすい病院」評価事業のこと。この評価は「女性医師を含むすべての医療従事者が安心して働くことができる病院」という観点から、病院の「働きやすさ」を評価・認定することにより、「すべての医療従事者が働きやすい病院」が着実に実現されていくことを目的としています。認定病院は現在、全国で7病院。

■ 病院機能評価
医療の質の向上を目的として財団法人日本医療機能評価機構が行う医療施設の機能についての評価事業のこと。この評価は施設整備などの外形的なものにとどまらず、医療サービスなどについて第三者的な立場から中立的・客観的に評価するものです。認定は5年間有効で、認定期間が終わると再取得する必要があります。



看護師不足
18年度から看護師の病棟配置基準が引上げられた(入院患者10名に対し看護師1名配置)から、患者7名に1名配置(看護師配置数を確保すれば、比較的容易に大幅な収入増が可能となったことから、大学病院をはじめとする都市部の病院が看護師の大量採用を行ったため、各地で大幅な看護師不足を来たしています。

市民病院の診療体制
本年6月1日現在、医師の定数43人に対して39人の正規医師が在職していますが、腎臓内科、小児科、放射線(治療)科で不足しています。腎臓内科医師がいないため、人工透析室を閉鎖し、腎臓病外来を休診。また小児科では神戸大学や済生会兵庫県病院から応援医師を派遣してもらい外来を続けています。

看護師は、定数233人に対し22人が不足するため、4月から1病棟を閉鎖しています。